

米の需給に関するその他参考資料

令和7年9月
農林水産省

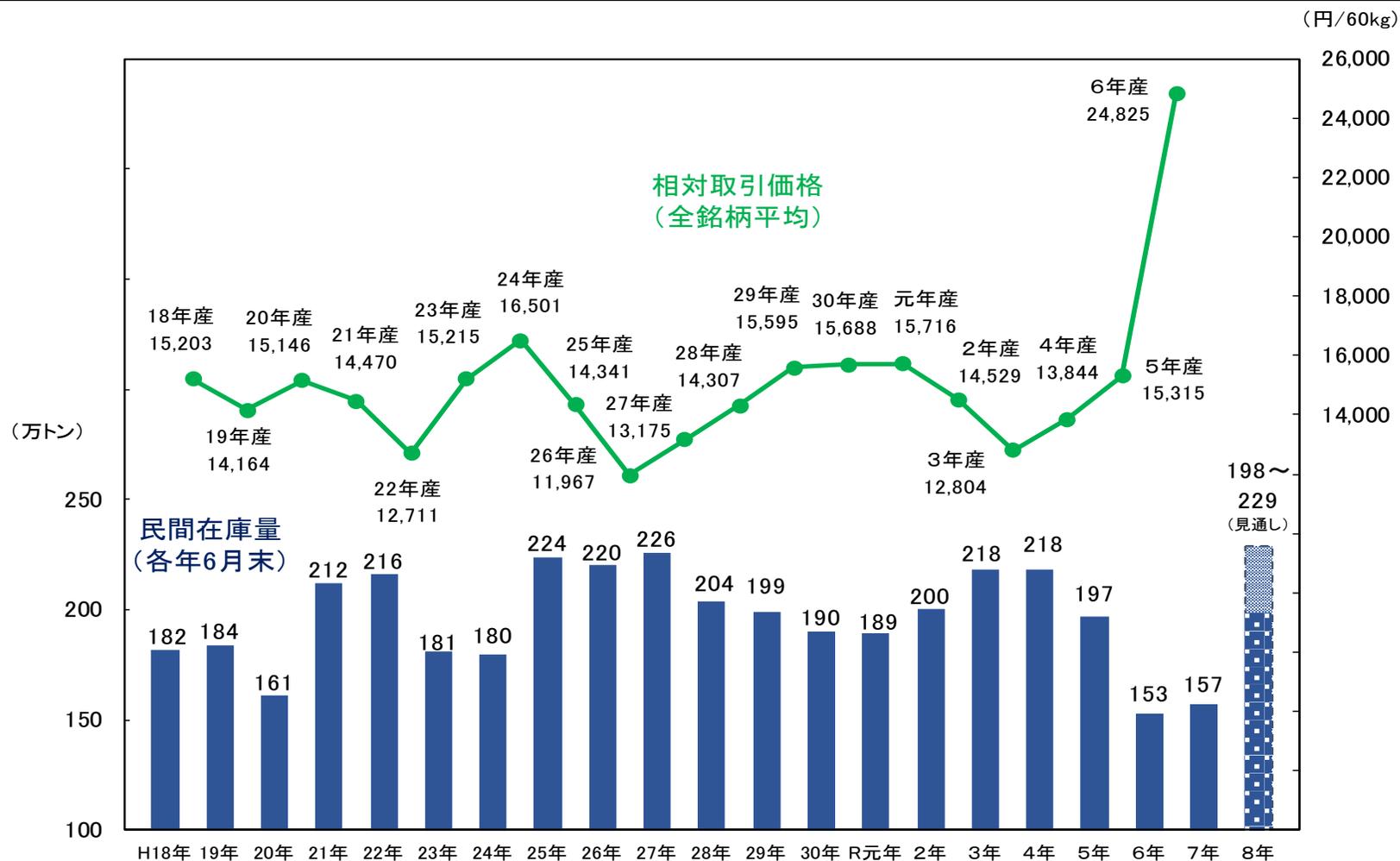
目 次

○ 相対取引価格と民間在庫量の推移	1
○ 令和6年産米の集荷業者の集荷・販売状況（速報）	2
○ 集荷業者の在庫量の状況（速報）	3
○ 卸売業者の在庫量の状況（速報）	4
○ 出荷（集荷業者）＋販売（卸売業者）段階の民間在庫量の月別の推移（令和7年7月末現在）	5
○ 相対取引価格の推移	6
○ 長期的な主食用米の価格の動向	7
○ スーパーでの販売数量・価格の推移	8
○ 水田における作付意向（令和7年産第3回中間的取組状況（令和7年6月末時点））【概要】	9
○ 政府備蓄米の在庫状況について	10
○ 主食用米の需要量の推移	11

相対取引価格と民間在庫量の推移

○ 令和8年6月末の民間在庫量は、令和7/8年需給見通しで示している「198~229万トン」と見込んでおり、仮に229万トンに達した場合、直近10年程度で最も在庫水準が高かった平成27年の226万トンに匹敵する水準。

(参考) 令和7年6月末の民間在庫量：157万トン、相対取引価格（令和6年産）：24,825円/60kg
 平成27年6月末の民間在庫量：226万トン、相対取引価格（平成26年産）：11,967円/60kg

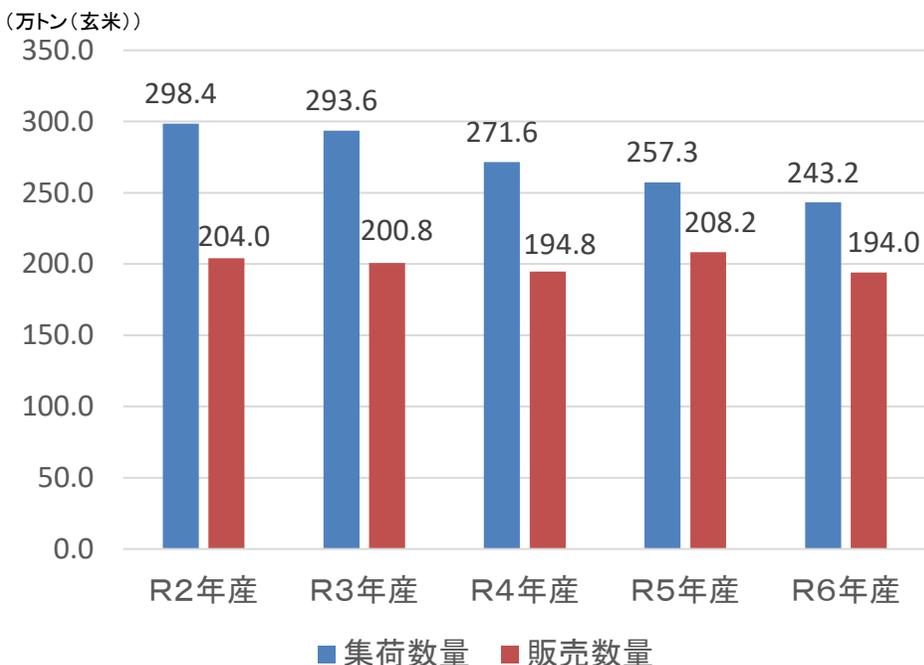


注：相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月まで（令和6年産は7年8月の速報値）の通年平均価格であり、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

令和6年産米の集荷業者の集荷・販売状況（速報）

- 令和6年産米の集荷数量は、令和7年7月末現在で対前年差▲14.1万玄米トンの243.2万玄米トン（売り渡した政府備蓄米14.0万玄米トンを含み、これを除くと229.2万玄米トン（対前年差▲28.1万玄米トン））。
- 一方、集荷業者から卸売業者等への販売数量は、7月末現在で対前年差▲14.2万玄米トンの194.0万玄米トン（売り渡した政府備蓄米13.9万玄米トンを含み、これを除くと180.1万玄米トン（対前年差▲28.1万玄米トン））。

【集荷業者の集荷・販売数量の推移（7月末時点）】



【集荷業者の集荷数量の前年差】

(単位: 万トン(玄米))

	9月末	10月末	11月末	12月末	1月末	2月末	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末
5年産	93.8	174.9	209.3	236.3	244.0	248.6	251.5	253.6	255.2	256.6	257.3
6年産	76.8	159.6	191.9	215.7	221.0	223.2	225.0	240.4	241.7	242.8	243.2
前年差	▲17.0	▲15.3	▲17.4	▲20.6	▲23.0	▲25.4	▲26.5	▲13.2	▲13.5	▲13.8	▲14.1

	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末
うち備蓄米(6年産)	0.3	13.9	14.0	14.0	14.0

【集荷業者の販売数量の前年差】

(単位: 万トン(玄米))

	9月末	10月末	11月末	12月末	1月末	2月末	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末
5年産	12.2	23.3	38.2	56.2	71.2	91.4	113.7	138.1	162.8	187.0	208.2
6年産	13.7	30.7	45.0	62.6	77.8	95.7	115.0	139.1	159.4	176.5	194.0
前年差	+1.5	+7.4	+6.8	+6.4	+6.6	+4.3	+1.3	+1.0	▲3.4	▲10.5	▲14.2

	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末
うち備蓄米(6年産)	0.3	3.8	8.9	12.4	13.9

資料: 農林水産省「米穀の取引に関する報告」

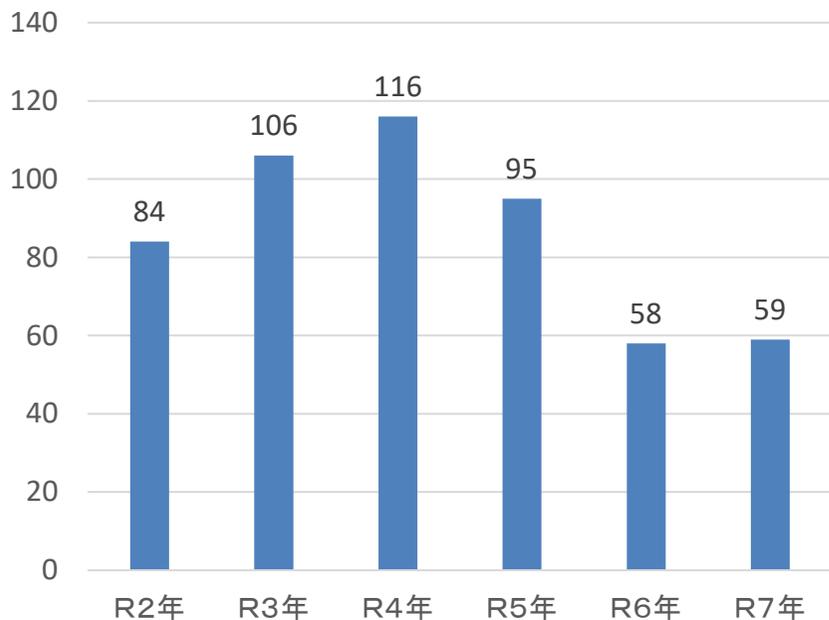
注: 集荷数量及び販売数量は、年間の玄米仕入数量が5,000トン以上の集荷業者を対象とした当該年産の出回りから翌年7月までの累計数量。なお、6年産には、売り渡した政府備蓄米の販売数量等の報告結果(7月分までの確報)のうち、6年産の数量(集荷数量14.0万玄米トン、販売数量13.9万玄米トン)を含む。

集荷業者の在庫量の状況（速報）

○ 令和7年7月末の集荷業者の在庫量は、59万玄米トンで前年同月に比べ1万玄米トン増加（うち売り渡した備蓄米の在庫は2.5万玄米トン）。

【集荷業者の7月末民間在庫量の推移】

（万トン（玄米））



【集荷業者の民間在庫量の前年差】

（単位：万トン（玄米））

	9月末	10月末	11月末	12月末	1月末	2月末	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末
5年	161	235	249	246	228	202	171	139	112	84	58
6年	113	187	200	196	179	159	135	125	109	84	59
前年差	▲49	▲49	▲49	▲49	▲49	▲43	▲36	▲14	▲3	±0	+1

（単位：万トン（玄米））

	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末
うち 備蓄米	0.0	14.5	16.4	7.8	2.5

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米の在庫量（玄米換算）の値である。

注2：年間の玄米仕入量が500トン以上の出荷業者を対象。

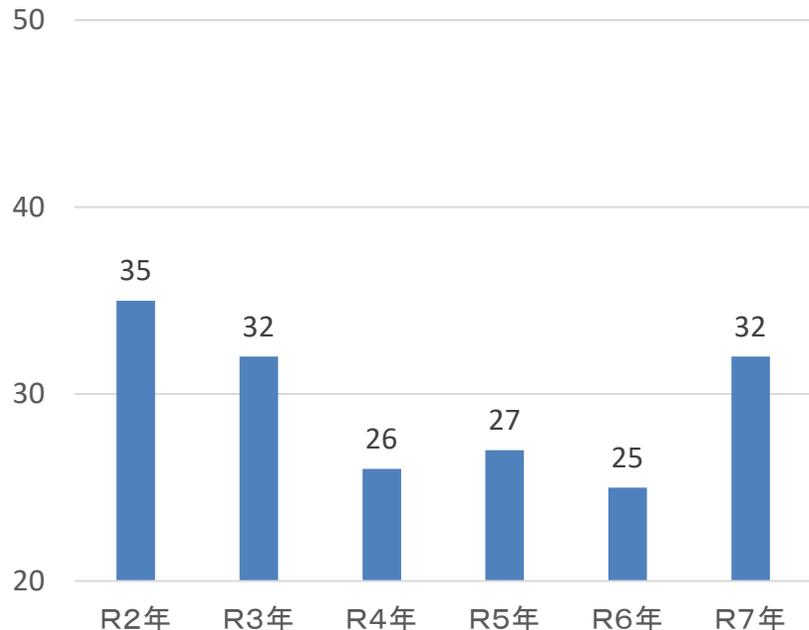
注3：令和7年7月末には、売り渡した政府備蓄米の数量2.5万玄米トンを含む。

卸売業者の在庫量の状況（速報）

○ 令和7年7月末の卸売業者の在庫量は、32万玄米トンで前年同月に比べ8万玄米トン増加（うち売り渡した備蓄米の在庫は2.7万玄米トン）。

【卸売業者の7月末民間在庫量の推移】

(万トン(玄米))



【卸売業者の民間在庫量の前年差】

(単位: 万トン(玄米))

	9月末	10月末	11月末	12月末	1月末	2月末	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末
5年	38	54	54	52	46	42	43	41	34	31	25
6年	36	58	59	56	50	46	45	43	40	37	32
前年差	▲ 2	+4	+5	+4	+4	+4	+2	+2	+6	+6	+8

(単位: 万トン(玄米))

	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末
うち 備蓄米	0.2	2.0	3.3	4.1	2.7

資料: 農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1: 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米の在庫量(玄米換算)の値である。

注2: 年間の玄米仕入量が4,000トン以上の卸売業者を対象。

注3: 令和7年7月末には、売り渡した政府備蓄米の数量2.7万玄米トンを含む。

出荷（集荷業者）＋販売（卸売業者）段階の民間在庫量の月別の推移（令和7年7月末現在）

○ 令和7年7月末現在の全国の民間在庫量は、出荷段階（集荷業者）・販売段階（卸売業者）の計で前年差＋9万玄米トンの91万玄米トンとなっており、出荷段階は前年差＋1万玄米トンの59万玄米トン、販売段階は前年差＋8万玄米トンの32万玄米トンとなっている。

【民間在庫量の推移(出荷＋販売段階) (速報)】

(単位: 万トン(玄米))

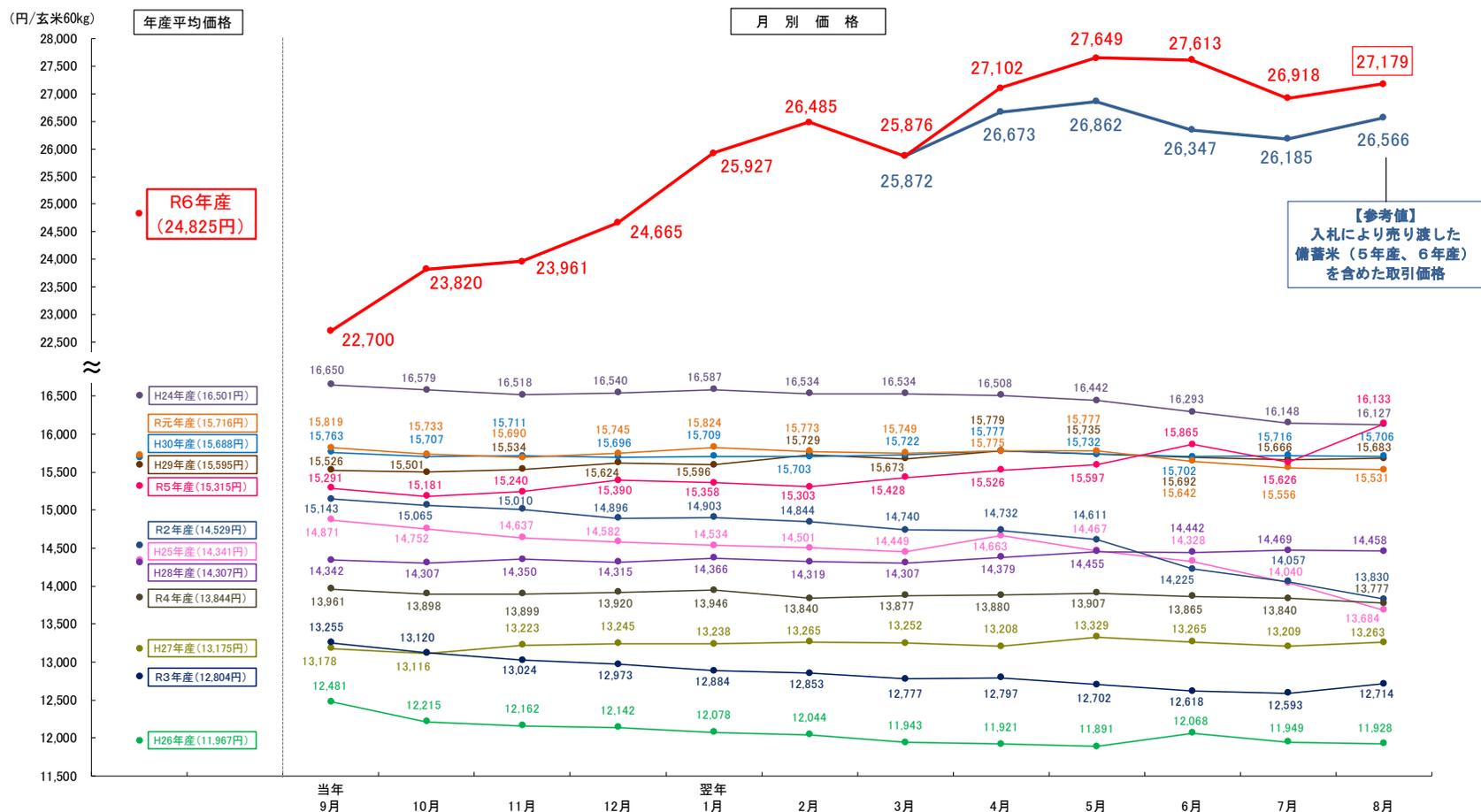
	毎月調査ベース												基本指針 ベース 6月
	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	
22/23年	118	102	212	351	372	363	339	304	238	200	156	118	181
対前年差	+5	+9	+48	+1	▲8	▲8	▲8	▲15	▲29	▲29	▲34	▲36	▲35
23/24年	83	55	134	298	327	320	291	259	224	185	147	113	180
対前年差	▲36	▲47	▲78	▲53	▲46	▲43	▲48	▲46	▲14	▲14	▲9	▲5	▲1
24/25年	78	62	167	337	357	351	324	293	264	229	190	157	224
対前年差	▲5	+8	+33	+39	+30	+30	+33	+34	+40	+43	+43	+44	+44
25/26年	120	104	210	368	393	389	358	330	291	258	223	190	220
対前年差	+42	+42	+43	+32	+36	+39	+34	+36	+27	+29	+33	+33	▲4
26/27年	119	103	198	344	368	365	343	314	280	243	208	168	226
対前年差	▲1	▲2	▲12	▲24	▲25	▲24	▲15	▲16	▲11	▲15	▲15	▲21	+6
27/28年	130	112	184	321	341	337	314	287	254	218	183	147	204
対前年差	+11	+9	▲13	▲23	▲27	▲28	▲29	▲26	▲26	▲26	▲24	▲21	▲22
28/29年	114	93	177	314	338	329	306	282	248	212	177	141	199
対前年差	▲16	▲19	▲7	▲7	▲3	▲8	▲8	▲6	▲6	▲5	▲7	▲7	▲4
29/30年	108	88	155	283	315	311	288	263	234	201	167	134	190
対前年差	▲6	▲5	▲22	▲30	▲22	▲18	▲18	▲18	▲13	▲11	▲10	▲6	▲9
30/元年	102	87	151	288	305	301	282	258	227	192	161	131	189
対前年差	▲6	▲1	▲4	+5	▲10	▲10	▲6	▲5	▲7	▲9	▲5	▲3	▲2
元/2年	99	79	161	294	315	318	295	266	233	204	178	154	200
対前年差	▲3	▲9	+10	+6	+10	+17	+13	+7	+6	+11	+16	+23	+11
2/3年	119	101	190	324	344	342	321	293	265	230	199	173	218
対前年差	+20	+21	+29	+30	+29	+24	+26	+27	+31	+27	+21	+19	+19
3/4年	138	118	214	330	351	349	326	299	270	238	204	172	218
対前年差	+19	+17	+24	+6	+6	+7	+5	+6	+6	+7	+5	▲1	▲1
4/5年	142	122	199	313	330	328	306	280	251	219	186	153	197
対前年差	+4	+4	▲15	▲18	▲21	▲21	▲20	▲19	▲20	▲18	▲19	▲18	▲21
5/6年	123	104	199	289	303	298	274	244	214	180	145	115	153
対前年差	▲20	▲18	±0	▲23	▲26	▲31	▲32	▲36	▲37	▲39	▲40	▲38	▲44
6/7年	82	65	149	244	259	253	229	205	180(0)	168(16)	148(20)	121(12)	157(12)
対前年差	▲40	▲39	▲51	▲45	▲44	▲45	▲45	▲39	▲35	▲12	+3	+6	+5
出荷段階	58	44	113	187	200	196	179	159	135(0)	125(14)	109(16)	84(8)	
対前年差	▲38	▲34	▲49	▲49	▲49	▲49	▲49	▲43	▲36	▲14	▲3	±0	
販売段階	25	21	36	58	59	56	50	46	45(0)	43(2)	40(3)	37(4)	
対前年差	▲3	▲5	▲2	+4	+5	+4	+4	+4	+2	+2	+6	+6	
7/8年	91(5)												
対前年差	+9												
出荷段階	59(3)												
対前年差	+1												
販売段階	32(3)												
対前年差	+8												

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注：1 水稻うるちのみ及び水稻うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。
 2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。
 3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。
 4 期間については、7/8年であれば、令和7年7月～8年6月である。
 5 令和7年3月以降の()書きは、売り渡した政府備蓄米の在庫数量（内数）である。

相対取引価格の推移(平成24年産～令和6年産)

- 令和6年産米の令和7年8月の相対取引価格は、備蓄米の取引を含む全銘柄平均で27,179円/60kgとなり、対前年同月 +11,046円(+68%)、対前月+261円(+1%)。
- 令和7年3月以降の米の取引価格の参考として、令和5年産の備蓄米も含めると、26,566円/60kg。
- 令和7年8月までの年産平均価格24,825円/60kgは、出荷業者と卸売業者等の間の取引価格としては、比較可能な平成2年以降で過去最高の価格である。

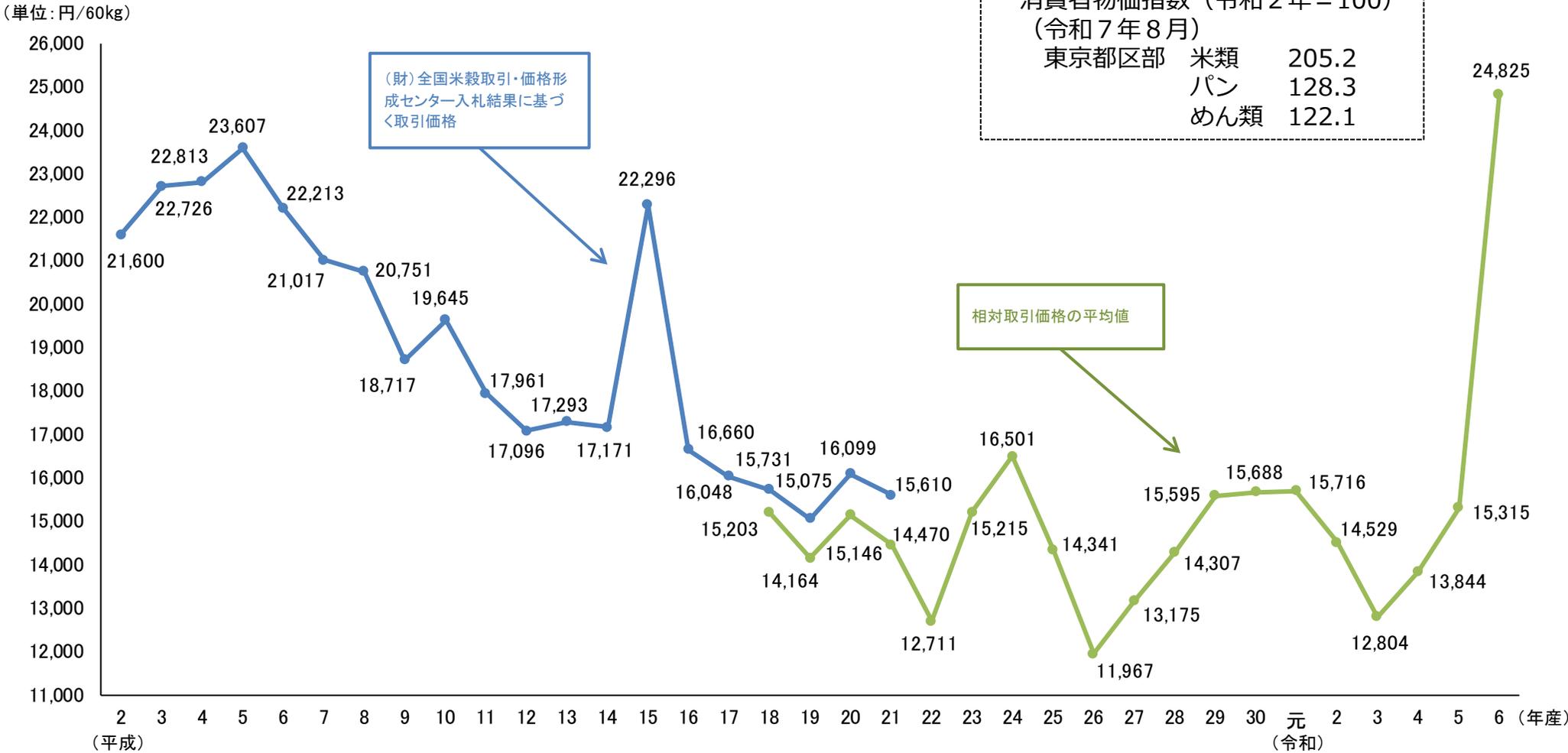


資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注1：運賃、包装代、消費税相当額(平成26年3月までは5%、元年9月までは8%、元年10月以降は10%、ただし軽減税率対象は8%)を含む1等米の価格である。
- 注2：グラフ左側の年産平均価格は、当該年産の出回りから翌年10月まで(6年産は出回りから令和7年8月までの速報値)の通年平均価格、右側は月ごとの価格の推移。
- 注3：令和5年産の備蓄米は、政府備蓄米の買戻し条件付売渡しの販売数量等の報告から集計。

長期的な主食用米の価格の動向

【参考】
 消費者物価指数（令和2年=100）
 （令和7年8月）
 東京都区部 米類 205.2
 パン 128.3
 めん類 122.1



資料：(財)全国米穀取引・価格形成センター入札結果、農林水産省「相対取引価格」

注1：価格には、包装代、運賃、消費税相当額等を含む。

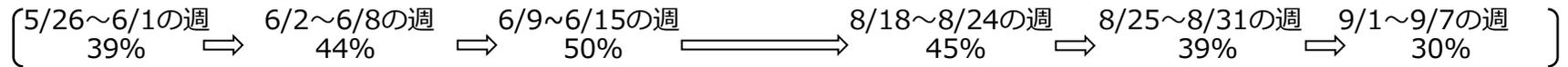
注2：年産別平均価格（令和6年産は、出回りから令和7年8月までの速報値）。

※・コメ価格センター取引は、自主流通米の指標価格の形成を図るために実施されていたが、平成16年の食糧法改正により計画流通制度が廃止され、義務上場がなくなったこと等を背景に取引が低調となり、平成21年産をもって取引を中止。
 ・コメ価格センター取引が低調となったことを受けて、コメ価格センター取引価格の指標性を確認する観点から、相対取引価格について、農林水産省が18年産米から年間取扱数量5,000トン以上の全国出荷団体等と卸売業者の取引価格を調査、公表。その後も米の価格動向を把握するため引き続き実施。

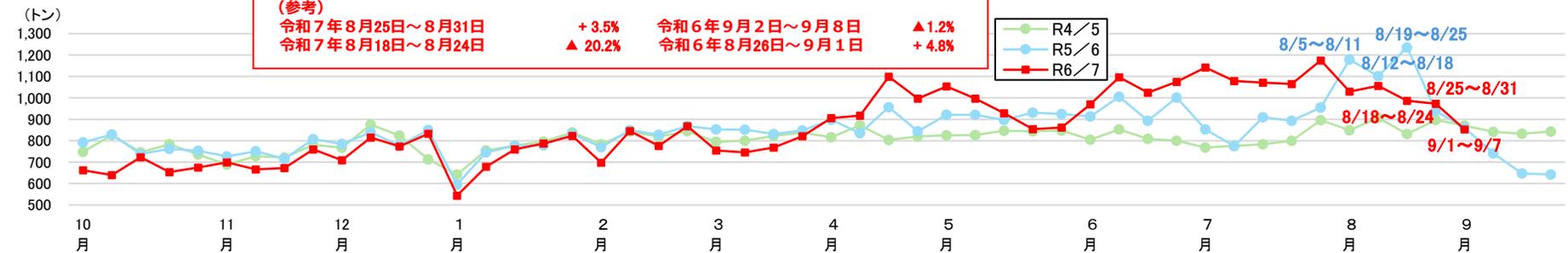
スーパーでの販売数量・価格の推移 (POSデータに基づき作成、全国・週次)

○ 令和7年9月1日の週の平均価格は、前週の3,891円/5Kgから264円上昇し、4,155円/5Kg。
(対前年同期+39.6%、前週比+6.8%。令和7年6月2日の週以来、13週ぶりに4,000円台。)

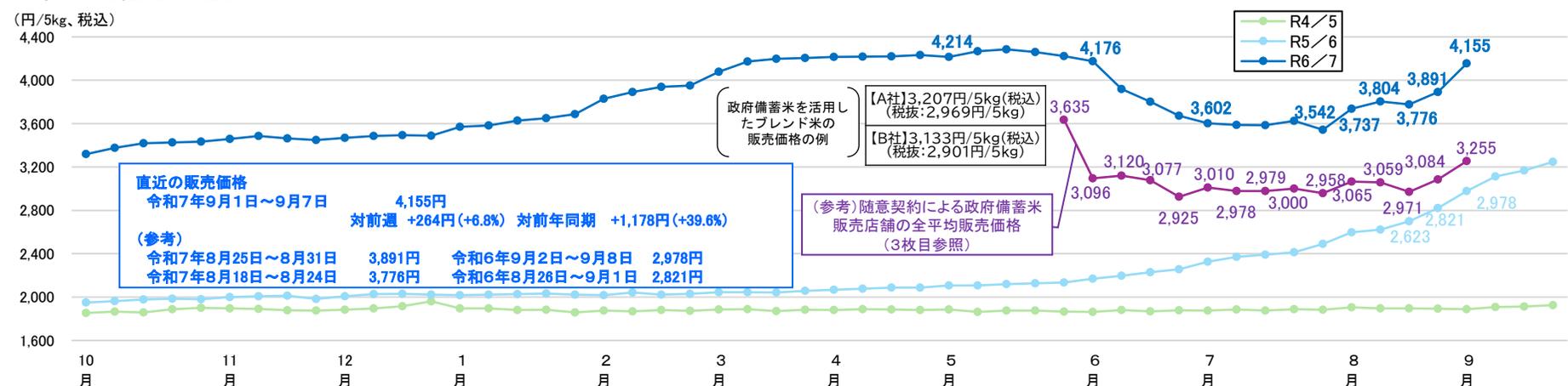
○ 随意契約による政府備蓄米の販売が減少。
新米の出回りなども背景に、販売数量に占めるブレンド米等の比率は30%に低下。



(1) 販売数量の推移



(2) 販売価格の推移



資料:(株)KSP-SPが提供するPOSデータ及び随意契約による政府備蓄米販売先事業者からの報告資料に基づいて農林水産省が作成

注1:(株)KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約1,000店舗のスーパーから購入したデータに基づくものである。

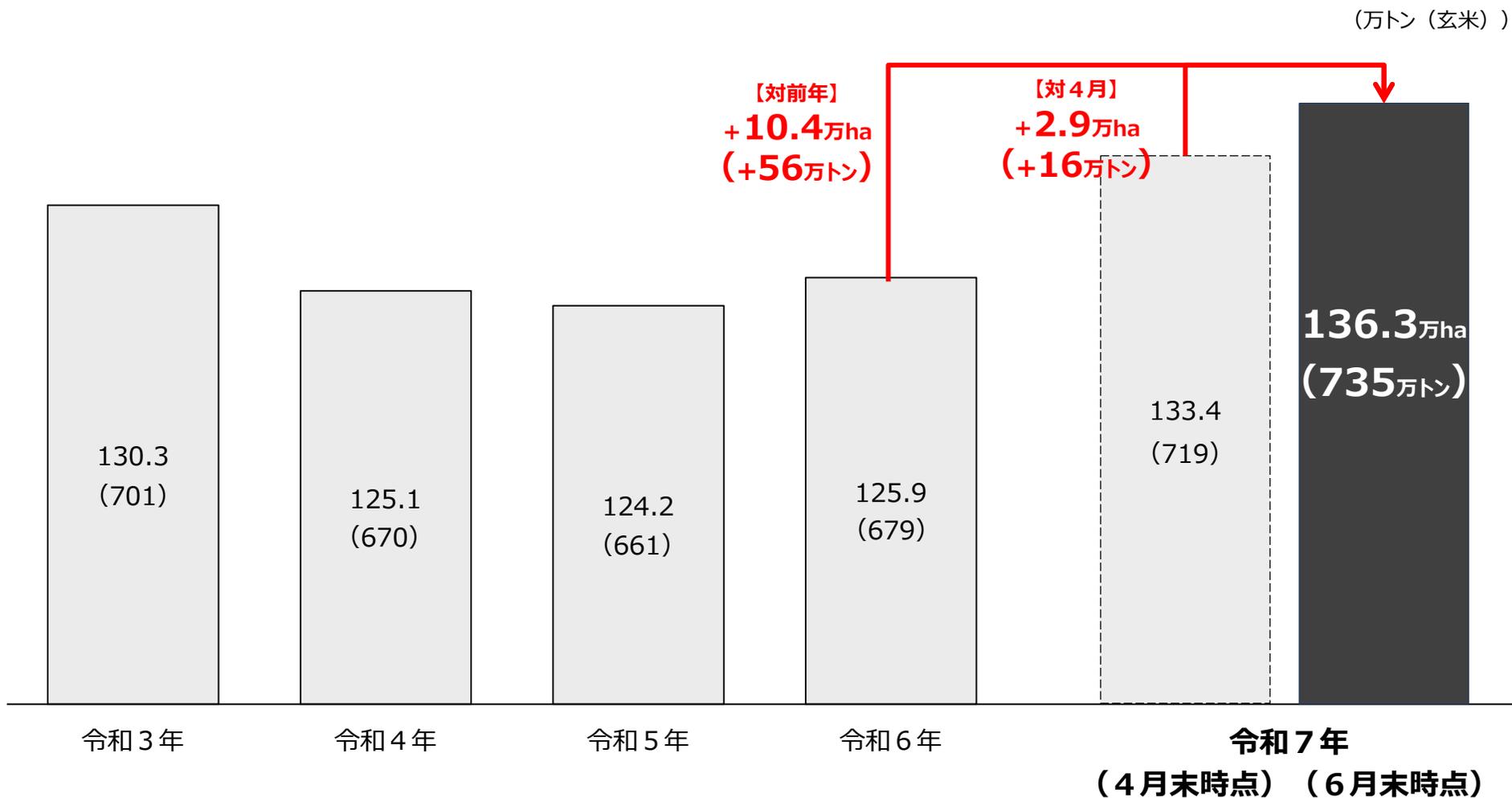
注2:週次データを月ベースに当てはめているため、実際の月とは若干異なる場合がある。

注3:『ブレンド米等』には、ブレンド米のほか、PB商品等も含まれる。

注4:ラウンドの関係で対前週比等の数値は一致しないことがある。

水田における作付意向(令和7年産第3回中間的取組状況(令和7年6月末時点))【概要】

- 本年6月末時点の主食用米の作付意向は、136.3万ha(対前年10.4万ha増)、735万玄米トン(対前年56万玄米トン増)
- 4月末時点の前回調査時と比べ、さらに2.9万ha、16万玄米トンの増
- 過去5年で最大の生産面積(増加の伸びも生産量調査を開始した平成16年産以降、最大)



政府備蓄米の在庫状況について

売渡し前の在庫状況（7年3月末）

96万ト

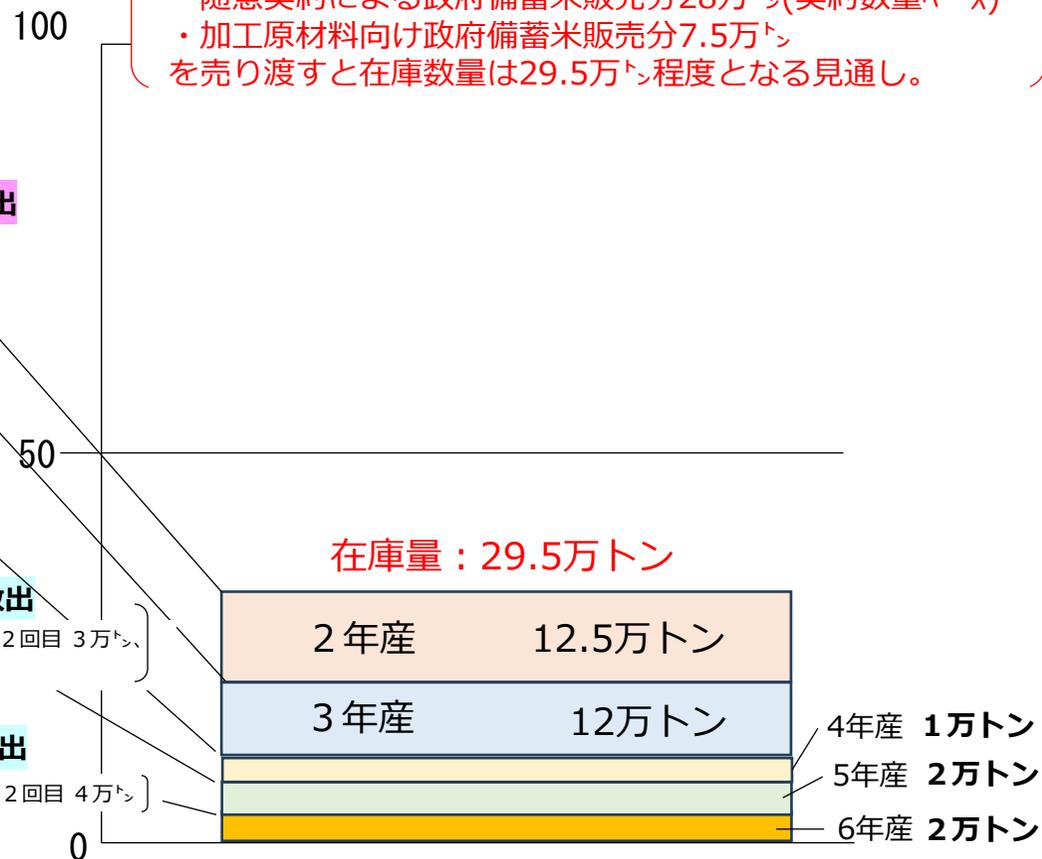
令和7年6月末在庫91万トに向けて、令和2年産を配合飼料向けに6月末までに5万トを販売する予定であったが、販売を凍結



現在の枠が全て販売された後の在庫見込み

29.5万ト

・入札による政府備蓄米販売分31万ト
 ・随意契約による政府備蓄米販売分28万ト(契約数量ベース)
 ・加工原材料向け政府備蓄米販売分7.5万ト
 を売り渡すと在庫数量は29.5万ト程度となる見通し。



- 加工原材料向け売渡し
- 随意契約による売渡し
- 買戻し条件付の売渡し

主食用米の需要量の推移

